# 愛知東邦大学 シラバス

| 開講年度(Year) | 2025年度 | 開講期(Semester) | 後期 |
|---|---|---|---|
| 授業科目名(Course name) | 日本の文化 | | |
| 担当者(Instructors) | 佐々木 裕美 | 配当年次(Dividend year) | 1 |
| 単位数(Credits) | 2 | 必修・選択(Required / selection) | 選択 |

## ■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

この「日本の文化」は留学生を対象とした授業である。授業名の通り、日本の文化に関して理解することを目的とするが、その根底の学びは「異文化理解」にある。具体的には、日本で大学生として生活することを通して、留学生自身の国の文化を顧みるきっかけを提供する形で授業を展開する。従って、授業内では活発なディスカッションが期待される。シラバスに含まれない内容についても、自分たちで積極的に実際に見たり体験したり挑戦してみたことの振り返りを行う。

## ■授業形態・授業の方法(Class form)

| 授業形態(Class form) | 講義 |
|---|---|
| 授業の方法(Class method) | 大学の教室において、主に対面で行う。<br>日本で当たり前と捉えられている言葉の意味や文化について学ぶことを通して、自国の文化についても考え、その違いを理解するためにノートを書いて話し合う。ノートの書き方と発表の仕方については、丁寧に説明しながら日本語で発表する力も養う。<br>講義のうち１回は、日本文化に精通した外部講師による講義または文化体験を予定する。<br>２回程度、メディア授業を実施する予定である。 |

## ■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

| 回数(Num) | テーマ(Theme) | 内容(Contents) | メディア区分(Media) |
|---|---|---|---|
| 第1回 | オリエンテーション<br>自己紹介 | この授業の進め方、日本の文化についての知識と興味の確認<br>ノートの書き方の説明、発表の仕方の説明 | □ |
| 第2回 | 文化とは？ | 「文化」の定義について話し合い、考える | □ |
| 第3回 | ホフステードの６次元モデル | 日本に住んでいて感じる／驚く、自国の文化との違いを、ホフステードの６次元モデルに基いて考え、話し合う | □ |
| 第4回 | 曖昧：あいまいな表現、あいまいさが持つ意味 | 日本で生活していて感じる曖昧な表現と、自国の文化との違いについて考え、話し合う | □ |
| 第5回 | 甘え：依存と甘えの構造 | 日本の家族関係と自国の家族関係における「甘え」について考え、話し合う | □ |
| 第6回 | 沈黙：沈黙は金か？<br>コミュニケーションスタイル | 阿吽の呼吸、一を聞いて十を知る？<br>日本と自国のコミュニケーションスタイルの違いについて考え、話し合う | □ |
| 第7回 | 道：武士道、茶道、華道、合気道、書道など | 日本における「道」とは何か、また自国の文化で「道」に匹敵するものは何か、について考え、話し合う | □ |
| 第8回 | 腹芸：言わずして伝える<br>非言語のコミュニケーションスタイル | 言語や所作以外のことばにはどんなものがあるか、考え、話し合う | □ |
| 第9回 | 本音と建て前：公私で変わる振る舞いやことばづかい | 公の場と、私的な場とで異なる振る舞いにはどんなものがあるか、考え、話し合う | □ |
| 第10回 | 家：制度としての「いえ」 | 日本の家族制度や家族関係と、自国における家族制度や家族関係の違いについて考え、話し合う | □ |
| 第11回 | 昔話：強きをくじき弱きを助ける | 日本の昔話と自国の昔話の違いについて考え、話し合う | □ |
| 第12回 | 先輩・後輩：この関係は社会で役立つ？役立たない？ | 部活や組織における先輩と後輩の関係は、自国においては何にあたるかを考え、話し合う | □ |
| 第13回 | 内と外：地域社会、家族や親族、家の中と外 | 集団に属するということにはどんな意味があるのかについて、考え、話し合う | □ |
| 第14回 | ポップカルチャー：私の好きな名古屋の文化 | アニメ、マンガ、コスプレサミット、ジブリパーク | □ |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第15回 | まとめ、発表 | もっと知りたい「日本の文化」と「自国の文化」<br>違いを知って、違いを活かして、より良い学生生活を送るための知恵とは？ | □ |

**■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)**

予習：「日本の文化」について関心を持って過ごす中で、不思議に思ったり、疑問に感じたりしたことをノートに書いておく（30分）。 自分の国の文化について、事前に調べる（1.5時間）。 復習：毎回の授業の内容について、振り返りをノートにまとめ、必要な場合はより深く調べる（2時間）。

**■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)**

自分で見聞きしたことや体験したことをまとめ、その背景となる日本の文化と自国の文化について調べる。課題はすべてA4用紙一枚にまとめる。まとめたものを発表する際は、その場でフィードバックを行う。また、授業中は、自由に発言することができるので、疑問に思ったことがあれば、いつでも質問すること。

**■授業の到達目標と評価基準(Course goals)**

| 区分(Division) | DP区分(DP division) | 内容(DP contents) |
|---|---|---|
| 知識・技能 | ◆ 2019全学共通DP1 | 留学生として、学びの場である日本の大学および社会での体験をもとに、自国の文化との違いを知り、関連する幅広い知識を習得しながらそれを活用することができる。 |

**■成績評価(Evaluation method)**

| 筆記試験(Written exam) | 実技試験(Practical exam) | レポート試験(Report exam) | 授業内試験（in-class exam) | その他(Other) |
|---|---|---|---|---|
| | | | 100% | |

**授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)**

授業への積極的な参加を高く評価する（60%）
特に自分が興味を持った日本の文化や、自国の文化との違いについて、調べたり体験したりして、成果を発表する（40%）

**■テキスト(Textbooks)**

| No.(No.) | テキスト名など(Text name) | ISBN(ISBN) |
|---|---|---|
| 1 | 未定 | |
| 2 | | |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

**■参考図書(references books)**

| No.(No.) | テキスト名など(Text name) | ISBN(ISBN) |
|---|---|---|
| 1 | 経営戦略としての異文化適応力：ホフステードの６次元モデル実践的活用法（宮森千嘉子・宮林隆吉著、日本能率協会マネジメントセンター） | |
| 2 | 異文化理解力：相手と自分の真意がわかるビジネスパーソン必須の教養（エリン・メイヤー著、英治出版） | |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |